

様式第2（第5条関係）

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和6年12月16日（月） 午後7時00分から午後8時30分まで
- 3 開催場所
犬山市役所 2階 205会議室
- 4 出席した者の氏名（順不同）
 - (1) 委員 増田 修治、鈴木 伸太郎、宮地 勝則、紀藤 秀夫、
玉置 久美子、原 好恵、鈴木 誠、水内 智英、鈴木 温、関谷 みのぶ、
松浦 恵子、酒向 和美、中山 有香、佐曾利 吏佐、藤本 雅己
 - (2) 執行機関 井出経営部長、古田企画広報課長、若山企画広報課主査補、
吉田企画広報課主事、羽賀企画広報課主事補
- 5 議題
 - ・第2回会議での意見等への対応【報告】
 - ・市民アンケート調査結果【報告】
 - ・『(仮) いいね！いぬやま総合戦略2025-2030』素案について
- 6 傍聴人の数
0人

7 内容

(1) 開会

事務局（古田）	<p>「令和6年度第3回犬山市総合計画審議会」を始めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本日は、お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。本日進行を務めます、企画広報課の古田です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、はじめに鈴木会長からご挨拶をお願ひいたします。</p>
---------	---

(2) あいさつ

鈴木会長	<p>皆さん、こんばんは。今回の審議会も、いよいよ今日は3回目ということで、今日も皆さんから、特に重要な後半部分の意見交換を進めて意見の集約をしていきたいと思ひます。これまでの皆さんのご意見を反映した形で、赤字でたくさん修正した資料が用意されて、皆さんもお読みいただけたかと思ひます。そういう資料を基にして、今日は2つのグループに分かれて、皆さんの委員同士の意見交換を積極的にやっていただけるようにお願ひしたいと思ひます。どうぞ最後までご協力のほどよろしくお願ひします。以上です。</p>
事務局（古田）	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議ですけれども、委員総数15名のうち、皆様15名全員ご出席いただいておりますので、会議の定足数に達しております。本日の会議の成立をご報告させていただきますたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>また、本会議は「犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドライン」に基づき、会議並びに会議録を市ホームページで公開させていただいております。会議録作成のため、音声の録音をさせていただいておりますので、ご案内申し上げます。</p> <p>なお、本日の会議ですけれども、次第に従いまして、午後8時30分の終了予定としております。よろしくお願ひいたします。</p>

(3) 資料の確認

事務局（古田）	<p>続きまして資料の確認をお願ひいたします。順に申し上げます。</p> <p>はじめに、事前にお送りいたしました、次第、委員名簿。続きまして、「開催にあたってのご案内」、両面の紙になっております。資料1「市民アンケート調査結果報告」。A4横、カラー刷りのものになっております。表と円グラフなどが入っております。続きまして資料2「いいね！いぬやま総合戦略2025-2030（修正稿）」。A3横の1枚、カラー刷りの資料でございます。続きまして資料3「チャレンジする重点事業」。こちらA3のカラー刷りの資料ですけれども、右上に資料3-1、3-2、3-3ということで、それぞれ資料番号がついてございます。続きまして資料4「チャレンジする重点事業とその取り組み」こちらと同じくA3のカラー刷りで、右上の方に資料4-1、4-2、4-3と資料番号をつけさせていただいております。最後に参考資料、審議会での意見とその対応というA4の横の資料になっております。</p> <p>また、本日のグループワーク委員割振り表、参考資料2といたしまして、市民アンケート調査結果比較の2種類の資料を机の上にお配りをいたしました。ご確認をお願ひいたします。不足などございます方がいらっしやいましたら挙手をお願ひしたいと思ひますがいかがでしょうか。</p>
---------	---

(4) 議事

事務局 (古田)	<p>そうしましたら、引き続きこのまま議事の方に移らせていただきたいと思います。議事の進行は鈴木会長にお願いをいたします。よろしくお願ひいたします。</p>
鈴木会長	<p>はい。では、着座で説明をさせていただきたいと思います。先ほど申しましたように、これまで2回審議会を行ってきまして、本日が第3回目ということになりますので、次回1月20日の月曜日が第4回目ということで、4回目の会議に向けての考え方とか準備を、ほぼ最終のように進めていきたいと思ひます。</p> <p>第4回目の会議で確認をいただいて、そして、基本的には市長に答申をしていくという段取りにしております。</p> <p>今日実は、この会議をする前に事務局と打ち合わせをしたんですけども、私てつきり最初の諮問のときに市長から諮問をいただいたつもりでいたのですが、そうじゃなくて、あの時は副市長からいただいたんですね。もう随分時間が経つと忘れてきちゃってました。そういうこともありますので、こういう審議会をやる場合には、やはり諮問をする側の市長から、最後皆さんを労う意味で一言お礼を言っていただくということが、大事だと思ひます。ですので、第4回目は市長に一言、皆さんにお礼を言っていただくような、そういう場づくりをしていきたいと思ひます。そのためにも、今日は委員の皆さん同士で積極的に、意見交換をしていただくようにお願ひをしたいと思います。</p> <p>今日、前回の内容についての確認をこの場でやろうか、どうしようかと、いろいろ検討したんですけども、やはりこの前の皆さんの意見が非常に具体的で、かつ、これまでの資料をベースに、内容のチャレンジ、そして目標として取り組むべきことについて、具体的な指摘がありましたので、その内容について今一度、グループに分かれて、委員同士で積極的な審議をしていただきたいと思います。</p> <p>事務局がいますけれど、ほとんど無視して結構ですので、大事なのは委員同士の意見交換ですので、そこに重きをおいて、お願ひしたいというふうにお願ひします。</p> <p>そのような方向性を踏まえまして、本日議事に入っていく前に、いくつか確認事項があります。本日傍聴希望者はお見えになりますか。</p>
事務局 (古田)	<p>いらっしやいません。</p>
鈴木会長	<p>では、なしということで進めて参りたいと思ひます。</p> <p>それでは本日の会議の署名人を選出したいと思ひますけども、前回は宮地委員と紀藤委員にお願ひしましたので、今回は原委員と玉置委員のお2人、よろしいでしょうか。</p>
原委員 玉置委員	<p>はい。</p>
鈴木会長	<p>ではお2人にお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それではここまでの確認をした上で、今から議事に入って参りたいと思ひます。今日の次第をご覧くださいますと(1)、(2)、(3)とありますので、今から事務局に資料の説明を求めますけども、この資料説明では資料確認を一通りしていただいて、意見交換はこの後グループに分かれて積極的にやりたいと思ひますので、その時間を確保することにご協力いただきたいと思います。</p> <p>でははじめに、1つ目の第2回会議での意見等への対応ということですね。これは報告事項ですけども、事務局から委員の皆様方に説明をお願ひします。</p>
事務局 (古田)	<p>はい。説明させていただきます。参考資料1になります。こちらが第2回審議会</p>

	<p>での意見と対応ということで、はじめには全体会議の場でいただいた意見、続きまして2ページ目からはAグループの意見。5ページからはBグループの意見ということで、3区分で記載させていただいております。いただいた意見につきましては、その場で回答させていただいた内容は記載しております。また、その場で賜った意見についてはこの資料をもって、方向性、考え方のお示しをしております。</p> <p>また、会長からお話もありましたけれども、具体的な内容等については、この後ご議論いただく具体的な方向性ですとか施策の方にも反映させていただいておりますので、そういった点も含めてご確認をいただきたいと思っております。説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。それでは今の第2回審議会での意見とその対応について、何かご確認されたいことはありますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。ありがとうございます。それでは、続きまして市民アンケートの調査結果、こちらの説明をお願いいたします。</p>
事務局（古田）	<p>はい。続きまして資料1をご覧ください。市民アンケート調査結果報告ということで、前回の会議ですと問13までの部分をご案内差し上げました。今回は全体の設問に対する、回答の集計結果の報告をさせていただいております。具体的に加えましたのは、問14から19の部分のDX施策についての質問、問20から問24につきましては、犬山市の住みやすさという項目でお聞きした調査、問25から問30は、今後の公共施設のあり方、行政サービスについてというところで、ご質問を差し上げる内容の調査結果となっております。</p> <p>本日お配りをいたしました、こちらの市民アンケート調査結果比較をご覧くださいと思いますが、当日配付でまだ細かいところまで数字をご確認いただけないと思うんですけども、傾向といたしまして令和3年度の調査に比較をいたしまして、問2「安全安心を実感し、心豊かに暮らしていますか。」、問20「これからも犬山市に住み続けたいと思えますか。」を除いて全て基本的に今回の調査結果は、令和3年よりも上昇しているというような傾向でございます。大幅にというよりも、微増というものもございまして誤差の範囲と捉えることもできますが、基本的に今回の調査結果を令和3年度と比べて比較的の数値も上昇傾向であったというようなところもご確認いただければと思います。説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>この後の意見交換の中で、おそらく皆さんの発言の根拠、或いは背景に今回の資料の結果も比較というものもちゃんと使えると思いますので、ぜひ活用いただければと思います。今の市民アンケート調査結果の、令和1、令和3、令和6、この比較についての資料、何かご意見いかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。ありがとうございます。それでは、(3)をご覧ください。『(仮)いいね！いぬやま総合戦略2025-2030』素案について、これから事務局より説明いただきます。よろしくをお願いいたします。</p>
事務局（古田）	<p>はい。続きまして資料2をご覧ください。A3横の資料になります。こちらの資料につきましては、前回の会議でもお出しさせていただきました。皆様方から意見を賜りました。その中で、本日のグループワークでご議論いただきます。資料3、資料4にある、具体的な施策。今回はこの部分を、前回の意見を踏まえた修正として提示をさせていただいております。特に特徴的といいますか、大きく変更したことといたしましては、犬山市の魅力というのを、内容を少し加えさせていただいております。先ほどのアンケート結果もございまして、委員の皆様方からの意見も踏まえて、3項目ほど加えさせていただきました。ただ、この点につきましては、犬山市の魅力まだまだたくさんございまして、もう少し追加してもいいかなというこ</p>

	<p>とも少し考えておりますし、市長も魅力はたくさん記載した方がいいのかなという意見も資料を見た際に申しておりましたので、そういった点も参考にいただけたらなと思います。</p> <p>もう1点ですけれども、下に6項目ございます「総合戦略によって目指す姿を実現するための6つの視点」として、この点についてはグループワークを中心に意見をいただきました。この計画自体が行政からの目線ばかりではなく、まち全体で共有できるもののような表現にしてはどうかですとか、それぞれ6種類の差別化、区別がちょっと分かりにくいな、というような意見がございましたので、そういった点を踏まえて修正をさせていただいております。修正箇所については、下線が赤の部分になっておりますので、ご確認、ご報告をさせていただきたいと思っております。説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。随分内容が変更になっています。</p> <p>皆さんのご意見を踏まえて、再検討してきておりますので、第2期のいいね！いぬやま総合戦略を見て、そして今回の資料を見ると、資料2の内容の変化ってこの感じ取っていただけるし、また変更した背景というのものも、生活感覚で捉えていて非常によく分かる部分があるし、そこを踏まえて資料3、4、いろいろご検討いただければと思います。それでは今の内容についてご意見等ありますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、本日お配りした(1)(2)(3)の確認をいただきましたので、これから2つのグループに分かれてグループワークを行っていただくということにしていきたいと思っております。では、グループワークに使用する資料の3と4について事務局の方から改めてではありますけれども、説明いただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
事務局(古田)	<p>はい、資料3と資料4の説明をさせていただきたいと思っております。まず、この資料3と資料4なんですけれども、こちらの第2期いいね！いぬやま総合戦略お持ちかと思っております。16ページを開いていただけますでしょうか。16ページをお開きいただきますと、「暮らしたいまちがある」という1つのまちの目標の中の最初に、16ページは「犬山市での子育てと女性の活躍を応援します」という見出しのもとに、文章が書いてあります。これは具体的な方向性なんですけれども、この部分が資料3にあります右側の文章です。その下、「新たにチャレンジする主な取り組み」16ページに5項目ございますが、その項目を、今回新たな総合戦略に位置付けたいと考えて提案していただいているのが資料4の6項目になります。今回この表の形になっていきますけど、成果品としてはこの部分に反映されていくというようなところで資料のご確認をさせていただきたいと思っております。</p> <p>また、資料4のところなんですけれども今までは「新たにチャレンジする主な取り組み」という表現をさせていただきましたが、新しい総合戦略では、「今後チャレンジする主な取り組み」ということで、「新たに」を「今後」に変更させていただきたいと思っております。もちろん、今現在実施している事業につきましても、継続、更には拡充ということも十分考えられますので、必ずしも新規にこだわらず、今後チャレンジしていくというところで、この文言を修正させていただいておりますので、その点もよろしくお願ひしたいと思っております。説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>はい、資料の方の位置付けとこれから議論いただく内容のざっくりと紹介をいただきました。この点について何かご確認されたい点はありますか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>

(5) グループワーク

鈴木会長	<p>それでは、今説明をいただきましたので、これからグループワークに入って参りたいと思います。グループワークは、3つのまちの目標、「暮らしたいまち」、「活躍したいまち」、「訪れたいまち」がありました。その目標ごとに意見交換を行っていただくというルールをここで確認しておきたいと思います。目安ですけども、3つのうち1つ、大体15分ぐらいで確認をしながら3つのまちの目標をそれぞれ、グループ内で議論をしていきたいと思いますが、その辺は進行役の2人の先生にお任せをして、また皆さん意見交換をしながら時間設定は柔軟に対応していただければと思います。ただ、終わりの時間もありますので、一応15分、15分、15分で45分ということを目安としていきたいと思います。そして、またここに集まっていただきまして、それぞれのグループの中で非常に注目、工夫すべき発言、或いは共通して皆さんが強調されていた意見、この辺りは、取りまとめ役、進行役の先生にご発言いただきながら、今日出てきた意見の中でぜひ皆さんと共有したいと、ここは確認を身近にして、皆さんの意見をしっかりとこの内容に反映していく上で作業に入っていきたいと思います。先ほどグループ表がありましたけども、Aグループはこの会議室を出た203会議室の方で行っていただき、Bグループはこの205会議室で行っていただきます。</p> <p>では、早めに進行ができましたので、8時15分を目途として終了いただいて、この部屋にお集まりをいただけるようお願いいたします。全体会議は8時20分に再開するという事にしたいと思います。では、Aグループは関谷委員、Bグループは水内委員にそれぞれ進行をお願いしたいと思います。</p>
------	--

(6) Aグループ

関谷委員	<p>今日は、55分間、1時間を少し切る位の時間になりますが、皆さんにお配りされている「第3回の開催にあたってのご案内」というものを少し見ていただければと思います。グループワークの時間で今回ここで皆さんにご意見賜りたいのは、市民目線の表現かどうかと、どんな取組みをするか分からない内容がないかと、行政の計画ではなく、まち全体の計画になっているかどうか。個別の施策、先ほど説明があった「チャレンジする重点事業」というものに足りない視点はないかと。おそらく言い始めたらきりがないところもあると思います。是非「ここだけ」、「ここは」というようなことがありましたら、ご意見賜ればと思います。この4つの視点に沿って、かつ資料も膨大であっち行き、こっち行きすることになると思います。基本的には配られている資料3と4ですね。この資料3に書かれてある説明文が、お手元の資料のようになったときに皆さんが読みやすいかどうか、というような視点でご意見いただければと思います。その下にある、「今後チャレンジする取組み」というのが資料4の赤字で修正が増えていますので、そちらで何かお気づきの点とかございましたらご意見ください。「暮らしたいまち」それから「活躍したいまち」、「訪れたいまち」と、資料4はそれぞれに1枚の資料となっています。最初の「暮らしたいまち」というところから15分程度のグループワークで1つずつ項目を見ていきたいと思います。15分ずつとっても、最後10分近く余ると思いますので、少し様子を見ながら時間が余れば、全体を振り返っていくというような流れにしたいと思います。</p> <p>それでは、最初、資料があっち行きこっち行きして、落ち着かない感じで申し訳ないですが、まずは「暮らしたいまち」について、1番ボリュームも大きなところにはなりますが、資料3の1枚目とその裏ですね。それから資料4の1枚目にあた</p>
------	---

	るところです。資料4-1というところで、単純なところで言えば文言、こういう変更が必要だとか、事業であると、ここはどうかっていうようなことがございましたら、ご意見いただければと。 宮地委員お願いします。
宮地委員	まず簡単な文言のところから。
関谷委員	はい。
宮地委員	資料3-1の裏側の12番。右側ですね。説明文の1番最後ですけど、これアンケートにもありましたよね。要するに「市役所へ来なくてもよい」という表現がおかしいという話がね。日本語的にも多分「来る」ではなくて、「行く」ですよ。だから「行かなくても良い」ならまだ分からなくても、「行かなくても済む」アンケートもそのような言い方をしてあったと思いますが、やはり「行かなくても済む」ですよ。日本語的にも少しどうかと思います。
関谷委員	ありがとうございます。
事務局（古田）	これは市長がこの言葉を使っています。施策として打ち出している固有名詞のように使っているところもあるので、もう1度確認していきますが、こういうところで表記するには、ご指摘の通りだと思います。すみません、ご意見をお預かりということをお願いします。
宮地委員	他の表現との整合性ですよ。
事務局（古田）	要所、要所に市長がこの言葉をDXの推進のときに使っておりますので。
宮地委員	市長が間違っている発言だから、それはどこかで正してあげた方がいい。おそらく市長があちこちで恥をかかれるといけないので。
事務局（古田）	ご指摘もあるということも踏まえて、意見として預からせていただきます。
宮地委員	お願いします。
関谷委員	この委員会のグループから出ていたと言っていたらと思います。
酒向委員	市長の思いがあってわざとそうやって使ってみえるのかもしれないですから、市長にきちんと確認していただきたい。
事務局（古田）	はい。
宮地委員	私が言っていたと言ってもらえればと思う。
酒向委員	ありがとうございます。でも、ここはアンケートでもすごく突っ込まれていたのので、「来なくてもよい」にするなら、その思いも書いておかないと駄目ですよ。
関谷委員	市民目線かどうかというところが1つのチェックのポイントでもあったので、ありがとうございます。 それではその他にございますか。
酒向委員	単純に質問ですが、資料4-1で右ページに削除がいっぱいありますが、これはもうできたというか、できているので完了したみたいな意味でよろしいですか。
関谷委員	そこは事務局に確認した方がよさそうですね。
事務局（古田）	はい。ご指摘の通り完了したという部分もありますし、その施策を方向転換した、分かりやすく言うとやめた、というものもございます。
酒向委員	はい。
事務局（古田）	資料4-1の③に出てくるのが、「橋爪・五郎丸地区での道の駅エリアの整備」というものですが、この道の駅エリアの整備というのは犬山市として一旦その施策を白紙にして次の施策展開に移っていますので、そういったものは削除しています。
酒向委員	はい。

関谷委員	はい。ありがとうございます。何か質問も含めてありますでしょうか。
宮地委員	質問いいですか。
関谷委員	はい。宮地委員お願いします。
宮地委員	資料4-1の④ですけど「インフラを整えます」の右側の「蟬屋長塚線」というのがありますよね。前に都市計画審議会で質問したことがあって、これから検討を始めるという言い方を何ヶ月か前にされました。多分課長さんに聞いた方がいいと思いますが、いつから何か具体的にアクションを起こすとか、当てがあるとか、目処みたいなのがあるとか、具体的な計画があるんですか。
事務局（古田）	はい。具体的な計画はありまして、都市計画道路の中でも優先的に整備を進めていく、という方針なので、年度計画で進めています。この重要な「幹線道路整備」ということになると、犬山市はこの路線が最たるものかと。そこのご説明や具体的なスケジュール等についても、今回の議会なんかでも説明をさしあげております。
宮地委員	想定されるのは宮崎外科の南側ですか。
事務局（古田）	そこになります。
宮地委員	あそこの東西ですよ。何とか木材があるところですよ。あそこはこの前、都市計画審議会で質問したのですが、当然地主さんにもまだ何も話してなくて、これからという感じでした。
事務局（古田）	そこを重点的に進めていくという方針を持っているという事です。
宮地委員	要するに、本腰を入れてそういう検討するという事で理解していいですね。
事務局（古田）	そうですね。具体的に進めていくという方向です。
宮地委員	もう1点いいですか。同じものですが「公共下水道の整備」。これはほぼ1～2年で完了するって話をこの間聞いたのですが、同じ審議会でこれは5年計画の中にあえて入れているというのは何故か。現在の都市計画で公共下水道を完了させた後、さらに範囲を広げていくというような前提で5年計画に入っているということか。
事務局（古田）	5年間にできることなので終わったらどんどん広げてくものではなくて、現在行っているものをきちんと進めていきますという意味です。
宮地委員	多分本当あと1年で終わるって言っていましたよ、この間。
事務局（古田）	はい。それも含めての5年間かかるものばかりをここに載せていません。
宮地委員	分かりました。5年間の間できちんと完了するものも必要だからいれてあるということですね。
事務局（古田）	はい。
宮地委員	そういう理解でいいですか。
事務局（古田）	はい。
関谷委員	ありがとうございます。その意味で「新たに」ではなくて「今後」に名称を変えて、今やっているものも力を入れて、きちんと遂行していくということですね。
事務局（古田）	はい、おっしゃる通りです。
関谷委員	それでは、佐曾利委員お願いします。
佐曾利委員	「子育てと女性の活躍応援事業の実施」ですけど、活躍応援事業は何を想定されているのか。資料4-1ではなく、他の「活躍したいまち」というところとか、起業はあっても再就職とか、1度子育てで何かしら働く現場から離れた人のサポートをするみたいなのところの文言は見当たらないようですが。ちゃんと見きれてないのでいけないんですけど、そのような気がしまして。犬山だと実際に子育ての相談をする場所はいくつもあるんですけど、女性のこれからだったり再就職だったり復帰みたいなのところの相談する場所がないとずっと思っています。

原委員	そのようなものが必要なんだ。
佐曾利委員	誰に相談するか、というところでは、実際に今まで勤めていたところに復帰できる方はいいと思います。けれども、そもそも正社員ではない働き方をしてきた方々は、仕事の契約が終わっていたりするので、どこに、どのようにやっていくか保育園が先なのか。保育園は先には決められないので、仕事が決まらなると保育園も決まらない、みたいなことの仕組みなどは、もちろん子育て支援のところに聞くのもいいですけど、自分のこれからみたいな、家庭のことを相談する先が少ないと感じています。
原委員	もう全然年代が違うので、今の話の感覚が全然理解できなくて。どう自分が、子どもを育てながら働くか、ということは、今何でも支援、支援ですけども、支援は大事だろうけど、自分の思いから「こんな仕事をしたい」という思いの中から、自分で探していく、というのが基本ではないかと思う。多分、昔の生活はおじいちゃんおばあちゃんと一緒に暮らしているとかじゃなくて、単独で生活している家庭が多いからきっとそうだと思う。
佐曾利委員	逆に、40代50代はパソコンを触ってない世代だったりするので、再就職となったときに、パソコンが触れない。お仕事がそこでは選べない方々も、一定数いらっしゃるとなると、再就職の何かしらのセミナー、ハローワークだけではなくて、もう少し情報が多い方が良いかと思う。そんな切り口も具体的だといいなと思います。
関谷委員	ありがとうございます。確かにこの資料3-1の説明文も、子育ては重く書かれています。佐曾利委員がおっしゃったみたいに、プチ企業体験するとかで留まっているし、ここも「子育てが落ち着いたら」となっているので、今の話だと子育てしながら仕事を両立させていきたい、1歩踏み出したい、という人に対してもなかなかどこに行こうか、ということになるっていうイメージが繋がりにくい。
佐曾利委員	リアルにスキルがある方や専門職の方は復帰しやすいと思いますが、そうでない場合も技術の仕事であると、ハローワークさんがしていると思いますが、情報の広がりがあったらいいなと。
原委員	そういうこと。でも企業側にしたら、子育てを通してお母さんたちの能力というのはすごく分かっていて、とても欲しがっているのは確かなことで、知り合いも様々な保育園の近くに看板を立てたら、子育て中のお母さんたちが多く、その中にはめちゃめちゃ優秀な方が見えて、そういう世代の人を企業側の立場です、利用ではないですけど、来ていただくことは会社にとっても、良いというすごい能力を持った人たちがいっぱいいるとチャンスということですよ。今話してくれたのは。
関谷委員	「チャレンジする取り組み」とかだと、マッチングみたいなものになるってことですか。
佐曾利委員	それも1つだと思う。正社員の募集だけだとなかなかそこにたどり着けないということがあってもいい。核家族が多いので、負担が全部自分に来ると思うと踏み出せないようにとらえてしまっているのであれば、ということですね。再就職に向けてワープロなどそういうパソコン関係がもう一度学び直せるとか、グーグルのツールが全部入るとかあるといいなと思います。
酒向委員	リスケリングできるとすごくいいですよ。そこについてぜひやらせていただけたら。
原委員	市のパソコン教室だとか、いっぱいやっていますよね。
佐曾利委員	託児付きとかがあったら、もっと人が行けると思うのですがけれども、現状としてはそんなに多くはない。
酒向委員	そうですね。普通に平日の日中はやっぱり高齢者が多くて、土曜日もやっているんですけど、土曜日は特にこういう方たちのためのパソコン教室もやっています

	が、ちゃんと手が届いているかなみたいな。
佐曾利委員	「暮らしたいまち」という視点では、そういうPRもあるのかなと思う。
関谷委員	ありがとうございます。住み続けていくためには職というかその地に足をつけていくことは大事だと思う。 ありがとうございました。その他ありますでしょうか。
増田委員	1個だけいいですか。⑥のところに「U I Jターン」とありますけど、まず皆さんその意味は分かりますか。
藤本委員	あんまり分からない。
増田委員	ですよね。僕は分かるのですが、一般的な言葉ではない。Uターンが何でIターンが何で、Jターンが何か分らないですよね。
宮地委員	Jが一旦ですね。
増田委員	Jが途中までですね。
宮地委員	Uは昔からあった。
増田委員	Uターンっていうのは以前犬山で、東京に行ってまた犬山へということ。Iターンは東京から犬山。Jターンは、犬山より奥、例えば岐阜の人とかが犬山に戻ってくるみたいな。
宮地委員	昔はUターンだけだったよね。
増田委員	多分一般的な言葉じゃないから、市民の人は分かるかなと思う。
宮地委員	何となく分かるけど、正確な理解はね。
佐曾利委員	それはそれで要素や目的がだいぶ違うと思う。
増田委員	そうですね。古田さん何かいい言い回しを。
事務局（古田）	U I Jターンというのは、確かに一般的に難しい言葉かと思えますけれど、この言葉に限らず、この総合戦略ということでいえば、最後の巻末にこういう用語集みたいながあるので、ここで説明をすることを予定しています。今回のU I Jターンは40ページのところにございます。
増田委員	一応載っているんですね。
事務局（古田）	はい。他の文言も今申し上げましたように、分かりにくいものもこういう形で載せていく予定をしております。その上で主な取組みの中に「U I Jターン」という言葉を使わないほうが分かりやすいかな、というご提案だと受けとめた方がいいのか、純粋に分かりにくいから変えた方がいいのか、どちらがいいのかなというのが逆にご質問です。
増田委員	ぱっとこれだけ見ただけでは分からないかなと思います。注釈があるよっていうのをこの中に米印など入れて。
宮地委員	それやると全部やらなければいけない。
事務局（古田）	この言葉の意味がどこかを見れば分かるということのをせめて分かるようにするという。
増田委員	そうですね。
事務局（古田）	今の戦略にも多分そのような見出しがないので、そこは工夫として考えていきたいと思えます。
関谷委員	佐曾利委員が先ほどU I Jでそれぞれ目的が違うのではないかと、という発言もありましたけど、もし目的が違うなら、事業はU I Jでまとまっていますけど、UとIとJでバラバラにするという提案も可能にもなるかもしれないです。要は定住してもらうということは一緒ですけど、ツールという働きかけとか仕掛け方が違ってくるすると事業の中身も違う可能性はあるとは思う。
宮地委員	おそらくそれはあるでしょう。要するに定住するのが犬山だとして出発点が全部

	違うという意味ですよ。だから目的はどうかというわけではなくて出発点がちがいますよ、ということです。他所から来る人と他所から来て1回戻りながら途中でやめちゃった人。だから、そういう出発点がそれぞれ違う人がたまたま犬山に集まりますという形ですよ。これはこれでなかなかキャッチーな感じでいいのではないですか。
増田委員	分かればいいですよ。
宮地委員	正確な意味でどうかではなくて、重点事業の説明とそれからその「ターン」という言葉。これであとはUとIとJがあれば何となくイメージが分かるような気がしますけどね。
増田委員	もう1個、これ誤字ですけど、⑨のところが「重層的体制整備」ですね。
関谷委員	そうですね。
事務局（古田）	失礼しました。
増田委員	すみません、もう1点だけいいですか。 2枚目の⑤のところ、「耕作放棄地対策」が削除になっていますけども、これ削除していいのかなと思いました。
関谷委員	資料4-2これは「活躍したいまち」なので後でお願いします。
増田委員	はい。
関谷委員	あと「暮らしたいまち」だとちょっと時間が来てしまっていますが、藤本委員ぜひ。
藤本委員	皆さんにもお聞きしたいことなのですけども、資料3の④番の「インフラなどを整えます」に該当すると思うのですが、プラスこの「総合戦略の推進にあたって」という資料2を見て、駅が多いって魅力なのかなって感じがしました。 あと、アンケートに「公共交通が便利なまちだと思いますか」という質問に対して、半数以上の方が「思わない」ですよ。インフラって駅も含まれると思うのですが、少なくとも市民の方は駅が多いことを魅力に感じていないと思うので、それを目指す姿に逆に反映させてしまうというのはすごく、真実ではないというか、フェイクニュースのような。市外の方はすごく駅が多いからアクセスがいいと思っていますし、すべて個人的な感覚なんですけど、市内在住の方で市内に勤められている、市内に通学されている方もいて、多分皆さん車とか、学生さんだと電車とか自転車が多いと思いますけど、社会人の方は車がメインだと思います。 電車をどれだけ使われているかも分からないですけど、僕は毎日電車を使うので個人的には魅力とと思っているんですけど、皆さん車で市内を動かれているイメージがあるので、駅はたくさんありますが、皆さんあんまり使わないイメージがあるので、使わないけど駅があることが魅力とするのは、僕はすごく不思議な感じがするので、そこで駅が多いというのを見ていろいろ違和感がありました。 あと、「インフラを整えます」の説明文に「移動手段を持たない人が困らないための、地域住民の「足」の確保についても様々な可能性を探りながら対応していきます。」というのとはどのような可能性があるのかなと思って、駅、足はたくさんあるんですけど、でもそれを実際に足とと思ってない方が市民にはたくさんいらっしゃるの、具体的にどういった可能性があるのか。
宮地委員	1ついいですか。駅が多いことを否定的にとらえるのではなくて、駅が多いことは移動手段として市内の移動手段ではない。駅が多いことが悪いことではなくて良いことだと認識した上で市内を移動する。その他の例えばバスとかでね。わん丸君バスの利用の仕方が不便だし、よく分からないという人も多いし、公共バスがないし。そこで本番のアンケートの結果で不満が多いのはね。駅が多いことが不満なのかという意味であれば、良い評価だと私も思う。

	<p>ただその上で、普通どこでもそうじゃないですか、幹線道路があって名古屋だったら地下鉄があるしね。だけでもそれだけでは市内を移動できないものだから、今度は主要拠点から拠点まで行って、そこからさらに移動するのに、バスだったり自転車だったり車だったり。犬山市は電車が不便そういうことが不満の人が多いいいことです。今の話で様々な可能性を探りながら対応していくと書いてあるのだけど、私もこれを考えたのですが、様々な可能性ってどういうのがあるかなと思ったら、バスしかないと思うのですね。その他何か想定してみるどうか分からないけど、ないですよ。</p>
事務局（古田）	<p>まず1点目の駅の話です。委員がおっしゃってみえたように、「駅が多い」というのは、実はアンケートの中では住むまちの魅力として5番目に、駅だけではないですけど、「電車、バスなどの公共交通の利便性が高い」というのが上位にきています。それは犬山市から外を見たもの、ということになっています。この犬山市の魅力というのは、市内完結というのは、まちの魅力として、暮らしにもいいし、活躍する機会でも、犬山にいればいろいろできるし、「訪れたいまち」という意味では外向けに考えたときに、駅が7つあるというのは犬山市の魅力だと考えております。</p> <p>一方で、皆さんがアンケートの中もきちんとご覧いただいて大変嬉しいなと思います。市内の公共交通がなかなか不便でして、不満の声が多いですので、そこを解消するために今後取り組んでいこうと書いてあるのが、「様々な方法の可能性を探る」。</p> <p>では、それは何と言われると、コミュニティバスが中心になっていたのですけれども、市としては、高齢者の方をタクシーの利用を充実させるですとか、ライドシェアって聞いたことは皆さんお有りかもしれませんけど、それに組み込んでみるだとか、いろいろ今模索している最中です。犬山市では行っていませんけど、バスのように走らせているものをタクシーのように走らせるライドシェアなど、いろいろまだ公共交通の様々な方法があるので、それをこれから探っていくというのが、内向けの施策としては考えられます。</p> <p>皆さんその切り取りを見ると、何となくつじつまがあわないような感じには見えてしまうのですが、仕立てとしてはそのように整理をして、イメージをしているのが今回の案になっています。</p>
関谷委員	<p>この資料2で見ると駅が多いというのは、「活躍したいまち」、「訪れたいまち」の方に寄っている。円が寄っているっていうことになるってことですか。</p>
事務局（古田）	<p>佐曾利委員のご指摘にもありましたけど、「暮らしたいまち」というのは、子育てと教育を想定として働く場所としても提供されていけばいいというのはやはり活躍する場としては必要なので。</p>
関谷委員	<p>なるほど。ようやくこの位置関係が分かってきた感じです。</p>
事務局（古田）	<p>丸の大きさ云々はそこまで整理できていないですけど。</p>
酒向委員	<p>もう1個いいですか。「災害が少ない」というのは確かに少ないですけど、そんな他力本願でよいのでしょうか。</p>
原委員	<p>他力本願ではないです。犬山というのは実際、お客様を誘致するのに、水害も少ないというのは確かな調査で本当のことです。</p>
増田委員	<p>他力本願といえば他力本願。環境的な話ですよ。</p>
宮地委員	<p>地盤がある程度固いとかそういう意味でしょ。</p>
原委員	<p>そう。</p>
増田委員	<p>「豊かな自然がある」というのもそうですよね。</p>
関谷委員	<p>ここに上がってきたものは、前回の調査のところの間24の項目が上位に来ている</p>

	<p>ものが、そのままここに項目としてあがっていつているところだと思います。それこそ「災害が少ない」は非常に上位にきている。</p> <p>それではだいぶ時間が押して参りました。次の「活躍したいまち」についてですけども、先ほど増田委員がこの4-2の⑤に当たるところの、現行の施策では「耕作放棄地対策」というところ、これが削除されているけれども、というご発言がありましたけれども、すみません、途中で多分発言を私が止めてしまったのもう1度説明をいただければと。</p>
増田委員	<p>単純にこれ抜けていいのかなという問題提起ですね。こっちの文章の方を見ても、「耕作放棄地や管理が不十分な農地が増えています」と。新しいリード文の新しい方にも書いてあるので、何で消すのだろうと思いました。</p>
宮地委員	<p>おそらく課長からは答えにくいから私から。農業委員会の会長をさせてもらって、農業委員会でいつも話題になる話で、実際、耕作放棄地は年々増えていまして対処しようがない。ここで提案しようと思っていたのは、皆さんご存じかどうか分かりませんが、農地があつて、それから宅地があつて、雑種地があつて、税務関係でいくと農地課税、農地というのは宅地の税金に比べてめちゃくちゃ安いですよ、何十分の1ですよ。それで真ん中に雑種地があるかなと思つたら実はそうでもなくて、雑種地は宅地並みの税金なのです。私は農業委員会1年半たちました。事務局にも指示して調べてもらったり、農業委員会でも発言をしたり何回もそれを言っていて、耕作放棄をする人にはそれなりの理由があつて、横着な人は少なく、実は相続してできないとかね。それからマンパワーがなくなったとか、そうは言つても、それはご本人の事情だと思うから、行政としては何かできないかということでお願いもして、それから指導もしますけども、何も聞く耳を持たない。法的な罰則がないわけ。</p>
増田委員	<p>そうですね。</p>
宮地委員	<p>だから、私が再三言っていたのは、農地課税と雑種地課税の真ん中にもう1つ作りなさいという話をされていて、そこは気の毒だけれども、真ん中に準雑種地とか非農地という位置付けをして、非農地課税。そうすると、宅地とは言わないけれども、今の農地よりも10倍ぐらい高くなりますよとか、そういうまず条例改正が必要なのです。犬山市の条例は準雑種地というのがあつて、それは何かというと、調べてもらったら、いわゆる山の麓みたいところが、かつて畑だったのが森林になっちゃったと。だから山になったということ。それは、位置付けとして準雑種地で農地課税と全く変わらない。意味はないでしょう。犬山市ですよ、江南市とかそれから山がないとかそういうところは準雑種地なんてないんですよ。犬山市はそれがある。だから私が提案しているのは、真ん中辺の非農地、それを条例改正して作って欲しいという話。要するに、言い方は悪いですけど武器ですよ。強化しながらきちんと指導しないと、聞いてくれない。</p> <p>余談ですが、そういうことでせっかく書いても、絵に描いた餅。明らかにそういう風に分かっていますので外しておいた方が正解だと思います。</p>
増田委員	<p>なるほど。書いたところでできない。</p>
宮地委員	<p>できない。できないことが分かってしまうだけです。私はそう理解しています。</p>
事務局（古田）	<p>趣旨としては、決定的に何かをすれば耕作放棄地がなくなるという話ではなくて、今は発生抑止というところにどちらかという主眼を置いているところもありまして、これを何か本当に集約化して、農業が終わった人に何かするというような、そういった施策は打ちにくいし、具体性もないので、宮地委員がおっしゃるように外させていただきました。決して軽視することはないけど、「今後チャレンジ」というところから削除させていただきました。</p>

宮地委員	農業委員会としては真面目に取り組んでいます。
増田委員	分かりました。
関谷委員	そうしますと、先ほど増田委員のリード文のところには、課題として書いてあるのに、というご発言もありましたけれどもここの整合性は取る必要はないということですか。
事務局（古田）	ここは前段の「担い手が減ってきていて棄地が増えている」という原因を「担い手不足」に置いています。そこで施策が「担い手を増やしていく」だとか、前段の3つの施策で育成していくとあるので、本文としては文言に入れていいのかなと考えています。
関谷委員	それでは、その他「活躍したいまち」に対してありますか。意見があれば、お願いします。
佐曾利委員	⑥の「みんなの資産をまちづくりに活かします」の「シェアエコ」を「シェアリングエコノミー」にできれば、「エコノミー」という記載を省略しないで欲しい。「エコ」というと環境の方の「エコ」にすごく勘違いをされるので経済活動です、というところをもう少しはっきりと出し、これまで組織型だったのが1人1人のスキルを共有することで、経済活動に参画できる、というところが大きな新しい活用だと思うので。結果、地域課題の解決に繋がっていくと思うのですが、まちづくりの中に経済の発展が入っている意味のまちづくりであると思っはいるのですが、まちづくりで集約するとすごく非営利的な経済活動とは違う側面が伝わるような感じがする。「みんなの資産をまちづくりに活かします」のフレーズで、シェアリングエコノミーがくると経済活動にイメージがリンクするのかなというのが個人的にどうかと思います。シェアリングエコノミーはあまり聞き慣れないものだと思うので、このままインプットされると違和感があります。アンバサダーをやっているので余計に違和感がある。1人1人がお金を回していくということで、結果的に繋がり合うとか個人と個人が繋がれるツールというところが打ち出されているので、どのように表現をするとより活躍の場として伝わっていくかな。
事務局（古田）	今のご指摘は、「まちづくり」という言葉で括ってしまうと間違いではないけれど、非営利活動のように思われるため、表現を変えたらどうだろう、ということでもいいですか。
佐曾利委員	そうですね。地域活動とかの促進で終わってしまう。1人1人が言ってみたらその起業の1つの形としてインターネットを介してスキルを提供することで事業化していけるものがあると思う。消去法の側面が消されていくような印象がある。 今、コアワーキングとか地域居住、拠点居住とか言われて、人が動きながらお仕事できる時代で、そういったところもまちの魅力と言える気がする。
事務局（古田）	まちづくりについても検討してみます。
佐曾利委員	あまり触れることがないものが急にここに入っている感が内心あって。
事務局（古田）	シェアリングエコノミーですか。そうですよね。
佐曾利委員	前の市長さんからの流れもあるのではないかと思います。
事務局（古田）	削除したい気持ちもあります。そのままでもいいし、犬山市の施策としてシェアリングエコノミーだと言う施策は現状なくて。
佐曾利委員	過去にはやっていましたよね。
事務局（古田）	おっしゃるように選択肢の1つとして、この概念は忘れてはいけないということがあるのですが、ここだけにフォーカスして何かやっているっていうほどでもない、あくまで方法というか、選択肢の1つですから、DXの話が出ましたけど、ここでシェアリングエコノミーと出すのは、他の並びとは私も少し毛色が違

	うと感じますが、過去の戦略からの流れもあります。
佐曾利委員	そうですね。ですから、「仕事を増やします」ではないですけど、何と云っていいのかわ。
事務局（古田）	取扱いについても、ご意見として賜ります。
宮地委員	1ついいですか。8番ですね。 課長にもお話ししましたが、金融機関、商工会議所、大学が入っていて、J Aが入っていないのはなぜかと。私はJ Aの代弁者というような立場で農協の役員やっていますので、申し訳ないのですが、やっぱり明らかに変だなと思っていて、見てみると、前回に私が質問したことに対する意見要旨というところが、私もきちんと見ていなかったのだけれど、私の申し上げたことと違っているところがございます。この表現の中で「農協の参加が可能か」、というような問いになっていて、農協との連携も対象ですよという回答になっていました。だから、このままでいいですよ、という意味だと思うのですが、私が申し上げたのは、表記として並列でJ A農協も入れてもらうべきではないかということ。例えば、10月に実施しました産業祭、あれも農業祭というのが中に入っている。補助金で農協から20万、市役所から20万、一緒なのですね。そういう意味では、いろいろな形で農協は協力体制でありまして、その他大勢の十把一絡げ、こちらで言うと民間企業者等という表現があるんだけど、金融機関と商工会議所、大学がそれぞれ単独で表現してあって、農協がなくて「民間事業者等」、多分、「等」の中に農協が入っていると、問い掛ければそのような回答が来ると思うのですが、単独でJ Aと入れて欲しい。前に申し上げたのもそういうつもりだったのですけれども正確に伝わっていないみたいなので、改めてここで申し上げますが、ぜひそうしてください。
事務局（古田）	こちらは今おっしゃったように金融機関、商工会議所、大学だけではない。ただ、列挙し始めると、J Aさんももちろんですが、他にもものすごく犬山市で連携事業をしまして、どこか特定の固有名詞を限定するのではなくて、様々な主体と繋がるというところにした方がいいだろうということで、あえて金融機関、商工会議、大学という表現も削除したということです。なので「犬山の活性化へ金融機関・商工会議所・大学等連携」という見出しそのものを「犬山の活性化につながる連携をすすめます」に変更してご提案させていただいています。
宮地委員	こちらは、重点事業の方は入っていますよね。資料3-2。
関谷委員	説明文のところに、「取り分け」というふうに書かれてあるところの並列的にJ Aもというご希望をされたってことですね。
事務局（古田）	分かりました。そのようなご主旨ですね。
宮地委員	私もJ Aですので、J Aの中の色々な声が聞こえてくるわけですよ。当然3市2町の集合体ですので、他の市町の江南や岩倉とか扶桑大口と、J Aとの関係に比べると、犬山市とJ Aとの関係がよろしくないという風評があるんですよ。30数年前に犬山南部農協の時代から犬山市と仲が悪かったと、そんなことを言う人がいるのですよ。だからこんなことで、そのようなことを言われたくないですから。
事務局（古田）	ここはご意見として確かにこの本文には残っていますが、列挙する形にするのか、タイトルのように包括した形にするのかは、検討させていただきます。
関谷委員	ぜひご検討お願いします。
宮地委員	これは商工会議所もそうだし、大学もかなり深く入っておられるから、この表記は残された方が私はいいと思う。
事務局（古田）	おそらく、これは協定という形で協定書を締結しているところを列挙しているということかと思えます。何かしら農業部門で協定等を締結していれば、横並びにな

	<p>りますし、その中でも実際、担当課も確認しながら、金融機関も商工会議所も大学も、民間事業者、協定締結をしていますので、そういう中でそういった基準で整理をさせていただきたい。</p>
関谷委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>もし宮地委員が、JAの方々への説明が必要ということであれば、「連携」という言葉でまとめないで、例えば「締結」という言葉を入れてしまうとか、何か挙げた根拠が分かるような文言をつけてもいいかもしれないですね。またご検討ください。</p> <p>その他「活躍したいまち」のところは、よろしいでしょうか。あと10分弱ぐらいになって参りましたので、「訪れたいまちがある」のところには分量としてはそれほど多くはないのですけれども、こちらも大事な項目になっていきますので、ぜひこちらの方でもご意見いただければと思います。いかがでしょうか。</p>
宮地委員	<p>1ついいですか。このテーマに合うかどうか分かりませんが、こういう場でお話する機会がなくて、実はあえて控えていたのですが、議論に水を差すような話になりかねないから。もし必要なければ議事録の方もカットしていただければいいんですが、こういう総合戦略の中にあちらこちらにあるのが「インバウンド観光客の誘致」。これは経済の活性化に繋がるということでもいいことだと、そういう表現があちこちにあるわけですよ。それで、個人としては観光客がいっぱい来られることは非常に嬉しい。両手を挙げて歓迎します。ただし、一市民として見たときに、皆さんご存じのようにインバウンドのせいで、住民の方々が結構困っておられるという話は、聞くわけで。何を問いかけたいかというと、インバウンドによって市民が、例えばインフラ整備の税金を使われたり、日常生活に支障が出るような混み具合だったり、そういうマイナスを差し引きしても大きくメリットが分かりますよ、という何か、行政サイドで分かりやすい、納得できそうな理由、お話があればして欲しいし、なければごまかしていただいて結構です。</p> <p>なかなか問いかけにくい話題で、この場で水を差すことになりかねないから言いにくいこともあって、控えていました。その辺はある程度このようなものであると、おっしゃっていただきたいな。知識と、そういうあれがある方はありませんか。</p> <p>国が言うのは分かるのですよ、国は当然いっぱい人がいれば、買い物すると収入が増え、だから消費税も上がる。国税ですよ。だから市県民税、住民税で、それに相当するものはないわけで、例えば、観光客が増えれば宿泊とか名鉄のホテル、名鉄電車とかこれみんな本社、市外ですよ。それから城下町の商店街にしても、市内に本社がないようなところもありますし、実際に増田さんもそうだけでもご自分でやっておる方もいらっしゃる。市内で事業をやっている人はいいです。その方々の収入が増えれば、所得に応じて住民税増えて犬山市の収入となる。けれども犬山市内で何%の方々がそのような商業に従事しておられて、大多数の90%以上の方は、おそらくそういうことにはない。</p>
原委員	<p>商工会として、本町通りのにぎわいの中から、犬山市内で事業を行っているかという、ほとんど他の市の人、その人たちが犬山商工会議所に入っているかという、全然入っていない人たちです。</p>
宮地委員	<p>高橋会頭が言っていたけど。名鉄に協賛金出してもらえばいいのではないかと誰かが話をしに名鉄に行ったら断られたの。年に1回やる犬山市主催の産業振興祭が土日になりました。協賛金の話ですけど、企業に回って協賛金をいただいたんです。副会長を私はやっています、会議で会長が言っていました。名鉄に行っても、断られることは何回かある。インバウンドで儲けているのにおかしいでしょう。答えがないかもしれないけど、なければないでちょっとどうかと。</p>
原委員	<p>めちゃくちゃそれは本当に残念だなと思う。ああいう人たちがもう少し、私は犬</p>

	山市の商工会の立場で、商工会に入っただいて、いろんな活動を話し合っ、1つの事業できるといいなと。本当に真剣に思っていますけども、あそこの中では誰1人入ってない。
関谷委員	今の関連のご発言で資料3-3ですと、②の「戦略ある観光まちづくり」とか、もしくは、①も関連してくるのかもしれないのですけれども、シティープロモーションのあり方っていうものにも、影響が及ぼされるものかもしれないですね。もともと今回の総合戦略への転換としては、観光だけではなくて、定住する人を増やしたいっていうところで、ここの部分も始まっていると思うのですけれども。ここのウエイトの置き方というようなものだったり、①、②というところが宮地委員の違和感があったり。それぞれの立場のところ、もうちょっと犬山の経済もそうですよね、経済が回っていく、犬山市に還元されるような何かがないか、市民に還元されるような何かがないかというようなことへのご提案とと思いますけど。
宮地委員	アンケートでも「観光ばかりに力をいれて市民にメリットを感じない」、「城下町のみ整備されている。」とある。
増田委員	すみません。それに付随して、もう少し楽田とか羽黒とか、いろいろ広いところあるので、「まち全体に」という言葉は文章としては出ているのですが、もうちょっと「チャレンジする主な取り組み」の中にも、悪い意見が出ているので、まち全体へのアプローチとか、そのようなことがあるといいのかなと思います。
宮地委員	そもそもまちづくりだからね。市は城下町だけで成り立っているわけじゃない。
関谷委員	人が動いて経済、色々なものが関連してきますので、観光が無いというわけにも多分いかない。この犬山市のまちの魅力に「歴史遺産・文化財・観光施設が多い」というのも上位には来ているので無視するわけにはいかないですけど、ここに載せていくにはいいバランスをとっていかなくてはいけないのではないかと思います。この辺りで表現の変更ですとか、また何か新しい事業、重点的な主な取り組みというところでこういったものを付け加えるといいのではないかと、というようなご提案がある方はいらっしゃいますか。
佐曾利委員	関係人口と言いますが、まだ犬山に住んでいなくて、犬山のことをやろうって、ここに訪れて関わってくださる方々が、稼ぎに来るまちではなくて、ここを一緒に盛り上げていきたいまち、暮らしたいまちに繋がるような文言がどこかにあったりしますか。
酒向委員	多分ないですね。
事務局（古田）	ありがとうございました。今の議論の延長戦で今日はまだお示しをしていないのですが、この計画はKPI、目標値があって、今までの継続は、その指標は「観光入込客数」です。ただ、新しい計画は、まだ今試案ですけど、関係人口の数に変えたいなと思っています。ただ、課題として関係人口というのは、どの項目を拾ったら関係人口の数であるのかというのは、まだ具体的にこれとこれとこれを足したら関係人口だよ、という定義がどこにもないので、オリジナルの定義は当然作るのですが、皆様がおっしゃったように、この今の段階でその関係人口という言葉はできていないです。この中でまたこの施策とか方向性で出そうと思うと、関係人口を増やすために、これやるんだっていうのはないですから、取り組みとしても具体化しづらい。考えの根底には、今佐曾利委員がおっしゃっていただいたように、来てもらって、関係を持ってもらって、このまちいいなと思ってもらって、住んでもらう、というストーリーを考えていますので、その考え方なり文言は最終的には入れたいと考えております。指標なのか違う形なのか分かりませんが、何か考えて入れていきます。
関谷委員	ありがとうございます。

	<p>是非、形にさせていただきたいと思います。住み続けたいと思う理由ではなくて、住み続けたくないと思う理由のところに表裏一体としてでてきてしまうもので、観光で人が来てくれるのはうれしい、そこで商売する人もうれしいけれども、先が見通せるような施策が出てくるとうれしいです。</p> <p>15分を回ってしまったのですが、何か発言が少なく最後言い足りなかったとか、ある方いらっしゃいますか。</p>
宮地委員	<p>1つだけ要望ですけど。アンケートの取り方ですが、前回もお話したのですが、どうしても老人が多い。住民の年齢層の数に応じた同じ割合で発送されているみたいですが、回収率からいうと当然老人が多い。そうすると同じ割合で発送することがいいのか、回収した数が同じくらいのほうがいいのか、と言う当然議論になる。私は後者の方がいいと思います。</p> <p>もう1つは、5歳刻みでアンケート集計していますよね。最終的に必要があるのかと思います。1番高齢者は70歳以上で、それ以外は5歳刻みというのは細かくし過ぎて、例えば18歳から20歳まで、あとは20から30まで40まで、それから70から80まで80以上。そういう書き方にした方が集計も取りやすいし、最終的に細かくする意味が分からない。なぜ、こんなことを言ったかという、最初の方の話で、その結果集まった数が人口割合に応じた、数になるように回収返送してくれない人多ければその層は多めに出す。そうすると今までの数字と定点観測みたいな形で比較がしにくくなる。だけど、どこかでそれをやっておけば、その方がその数字が、そういう取り方が生きてくるわけで、どこかでそういうふうに変更してもらったほうがいいかなという要望です。</p>
関谷委員	<p>ありがとうございます。アンケートの取り方も今回に関してはもう取り終えてしまっているものですので、次回のアンケートのところで、このアンケートだけではなくて、市としてアンケートを取っていくところではすべて考えなければいけないことだと思います。事務局の方、またよろしくお願いします。</p> <p>ではよろしいでしょうか。藤本委員よろしいですか。</p>
藤本委員	<p>最後にいいですか。</p> <p>やっとこの資料2の位置関係が分かりました。「訪れたいまち」、「豊かな自然がある」と書いてあるんですけど、ここの「訪れたいまち」のところに、チャレンジする重点事業として自然に関するのが③ぐらいしかないのかなと思った。先ほどおっしゃっていただいたような、観光に力を入れてしまう感じなので、市民目線ではなく、ずっと行政目線な感じがあると思います。最近ですと善師野地区で竹灯りのイベントをやっていますし、もっと豊かな自然があるということ、市民の皆さんも良いと思っている、そこをまちとしての魅力であるべきだと思うので、自然を生かしたPRであるとかそういう形で、自然の資源を使ったらいい。そこもチャレンジする重点事業になり、追加するとその一貫性があるとよいのではないかと私は感じました。</p>
関谷委員	<p>確かにそうですね。ありがとうございます。</p> <p>私は特に最後のところを中心に、出た意見を報告をさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、皆さん待っているかと思いますので戻りましょう。ありがとうございました。</p>

(7) Bグループ

水内副会長	<p>では始めたいと思います。お願いします。資料の具体的なところをこれから議論していきたいと思います。この資料3、資料4を見ながら、資料3-1と4-1が</p>
-------	--

	<p>対応している形になっていると思いますのでそれを順に、3-1の「暮らしたいまちがある」3-2の「活躍したいまちがある」3-3の「訪れたいまちがある」の3つで15分ずつとりながら進めていきたいと思っています。おそらく最後に少し時間が余りますので、全体を通してご意見いただけたらいいかなと思っています。そんな感じで進めていきたいと思っています。もう見ているかなとは思いますが、たくさん時間がありますので、ご意見いただければと思います。特に、ここにも書いてありますが「グループワークでの発言にあたっては」の部分ですけど、市民目線の表現か、それから、どんな取組みをするのか分からない内容はないか。行政の計画でなく、まち全体の事業になっているか。このあたりは特に資料3に関わるころかなと思います。そして個別施策ですね。チャレンジする重点事業に足りない視点はないかというのは、資料4に付随するものかなと思います。その辺りから少しずつ議論ができればいいかなと思いますが、いかがでしょうか。自由に発言していただければと思います。お願いいたします。</p>
中山委員	<p>アンケートの結果を見つづ思ったことがあるんですけども、家族で住んでいる方が多いので、単身とか独身で住んでいる方が少ないというイメージが他の市に比べてありました。なので、調べてみたところ毎年フロイデで合同企業相談会みたいなものやってるらしいんですけど、犬山市内でやっていると犬山市の方は来てくださるかもしれないですけど、市外の方が来るきっかけがあまりないのかなと思います。犬山市として、名古屋でやってる企業展とか企業フェアとか転職フェアに出展して、犬山市のまちの良さをPRしつつ、住める場所もあるよとか、そういうのをPRしていったらどうかなって思いました。</p>
水内副会長	<p>はい。ありがとうございます。そうですね。具体的にはどの辺りに関わりそうだと思いますか。</p>
中山委員	<p>UIJターンの支援だとか、6番の「帰ろうふるさと犬山へ 暮らそう働く犬山で」あたりですかね。</p>
水内副会長	<p>創業する人を支援するというような、この具体的な取組みのところで創業支援の実施がありますがそこに関わるような、さらに具体的な方法として市外でのPRを進めた方が良いのではないかなというご意見。</p>
中山委員	<p>そうですね。犬山市内に今でも、既存の大きな企業があつたりして、実際旦那が、村田機械で働いているんですけど、犬山の人が来なくて困ってるっていうことを聞いたので、企業自身も困ってたりするので企業との連携をしながら、犬山市の良さを増やして、市外から来てもらえるような仕組み作りができればいいのかなと思います。</p>
事務局（井出）	<p>ありがとうございます。市外にPRって非常に大事な視点だと思ってまして、我々も人口減少であつたり働き手が不足しているというところで、意識してます。なかなか市内の企業に呼び込むっていうところが今できてないんですけど、まず大事なのは、市役所の職員もなかなか受けてくれないというところで、今マイナビ転職で、名鉄電車の中に広告でありますよね、マイナビ転職フェアで犬山市役所も参加して、ブース出してます。結構好評で、今年の夏に行ったときには、全体の中でも5本の指に入るぐらいの評価が高かったんです。というのは、どうせ出るんだつたら若い職員に、その場でうちの犬山市役所すごい活気があつて楽しいんだよっていうことをPRしてもらおうと思って若い職員に行ってもらって、呼び込みをしたら、犬山市役所は良いところみたいと思っていただいて今年の採用面接でもそこで見てきましたという子は結構多かったです。やっぱりそういった取組みも大事なかなあ</p>

	<p>という。あと移住定住で外部っていう話では、ここに担当おりますけども、栄にURのまちのたねという施設があって、そこに今年2回参加して犬山市って住むまちとしても非常にいいんだよという形で、PRさせていただいてそれも好評だった。あとは、鈴木委員からもご提案いただいた東京ですね。東京有楽町で、全国的な移住定住フェアをやってございまして、そちらの方に出て、犬山市のPRやり始めたところです。</p>
水内副会長	<p>はい。今日できるだけ委員同士で、意見交換を進めていきたいという意向もあるので、もし意見がありましたらお願いします。</p>
松浦委員	<p>今のお話聞かせていただいて、春日井市の事例ですけれども、主人が担当していたキャリアセンター、名古屋大学の先生といろいろ関わらせていただいたときに、中部大学のキャリアセンターが同じような話で、春日井市の就職がすごく少ない、中小企業のこと全然知らない学生が多いということで。例えば、名経さんの学生を犬山市の企業さん、全部見れるようなブース作ってやるっていうことを春日井市はバスを使ってピストンしてやったそうです。そうしたところすごく中小企業さんの就職率が上がったとか、中部大学でいろんなところから来ている子が就職して、その土地で定住していくっていう形がとれているっていうお話を聞いていますので、犬山もそんな形で、大学さんと連携されるといいのかなと思います。</p>
事務局（井出）	<p>ありがとうございます。今、中部大学さんの事例、初めて伺いました。犬山も産学官という形で、市役所と商工会議所と名古屋経済大学で、一応協議会作ってますので、今ご提案あった事例の話もしてみようかなと思います。ありがとうございます。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。 その他いかがでしょう。はい、玉置委員お願いします。</p>
玉置委員	<p>はい。この資料3の12なんですけど、「来なくてもよい市役所を目指す」という表記になるということですよ、案としては。アンケートを見ると、この「来なくてもよい市役所」に対しても、それが嫌と言う人と、この表記じゃない方が、「来ても来なくても勝手が良い市役所」とかも少しニュアンスを変えた方が。「来なくてもよい市役所」に対して、すごく批判的というか、私はすごくいいと思うんですけど。もう少しアナログの方には、なんでそういうことを言うのですか、と書いてあるので。アナログの方からすると、すごく疎外感を感じる言葉なのかなとは思っているので、もう少し優しい言い方が分かりやすいですよ。来なくてもよいだったら、来なくて全部できるんだって私は思うんですけど。多分年齢層の高い方の回答を指摘されてたので、多分それが嫌だと感じる人が多いんだったら、もう少し表記を変えて差し上げた方が、私は良いと感じました。</p>
水内副会長	<p>そうですね。重要な視点かなと思いましたし、便利であるっていうことイコール来なくてもよいてことにはならないですよ。市役所は手続きのための場所だけではないので、いろんなことも相談、提案とか、そういう意味では、気軽に来れるっていう方がもしかしたらよろしいのかもしれないですけど、ここをうまくDXの推進によって、便利になるんだってことを強調したいってことだと思いますがその表現を少し改めて、よりここに書いてある市民サービスは、もっと分かりやすく、だけど親しみを持ってアクセスできる場所にするっていうことも重要ですよ。</p>
事務局（井出）	<p>すみません。確かにこのアンケートの結果、自由記述見ると、そういった意見って多くなってすごく実感しました。確かに、「来なくていいよ」という印象を与えるかなと思う。我々はそういう意図ではなくて、便利になるよということ。この中</p>

	<p>に書いてあるやつで、主体が市民であるべきで「行かなくて済む市役所」というのは、まだ言い方としては、市民目線かなという気はしました。これは今後検討していきたいと思うし、市役所が、市民の方が来ていろいろこちらが相談に乗ったりという場であることは変わらないと。それが大事な仕事だと思いますので、今後、いろいろ表現とかも踏まえて考えないといけないなど改めて思いました。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。 鈴木温委員お願いします。</p>
鈴木(温)委員	<p>はい。毎回のことなんですけどアンケートを見ると、住み続けたくない理由でやはり「買い物や外食が不便である」というのが結構高いですね。それに関連するところを見ますと、資料3-1の③になると思うんですけども、ここで気になることがあります。赤字のところ「市街化調整区域での地域コミュニティの維持に向けた商業施設の立地を促進し」と書いてあるんですけども、市街化調整区域限定というふうに見えるんですね。もちろん市街化区域が基本で、調整区域でもこういう面を把握していくということだと思うんですけども、「市街化調整区域で」と書かれると、ここ限定みたいに思うので気になりました。私も別件で関わってるので、市街化調整区域の地区計画が変わったことに対応してるんだと思うんですけども。そこだけ強調するのはどうかと思います。</p>
事務局(井出)	<p>ありがとうございます。おっしゃる通りで、この表現だと市街化調整区域だけみたいに読めてしまうので、先生のご提案あった「市街化調整区域においても」とか、その他の表現を検討したいと思います。</p>
鈴木(温)委員	<p>はい。あと細かいところも、もう1ついいですか。⑩のところ、「安全安心に暮らせるまちをつくります」のところ、「子どもから大人まで誰もが」と書いてあるんですけども、あえて書くとしたら「子どもから高齢者まで」の方がいいのかなと思いました。細かいところで恐縮ですけど、以上です。</p>
事務局(井出)	<p>ありがとうございます。検討させていただきます。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。 鈴木委員、お願いします。</p>
鈴木(伸)委員	<p>すみません、全体で気が付いたことですが、農業をやっているんですけども、資料3-2です。⑤「農業でがんばる人を応援」というところで、説明文でこうなるといいなことだと思いますが、「担い手、新規就農者の確保とか育成」あんまり頑張っても、犬山って農業で食べていける状況ではあまりないのかなと思います。6次化とかやった方が絶対いいんですけど、実際農業で食べていけるような書きぶりに読めてしまうんですが、もう少し地域を作るために、地域環境を維持するためにとか、そのレベルぐらいにしたほうがいいかなと個人的に思うんですが。個人的な意見でございますので、これでもいいかなと思いました。</p> <p>それと、その下のシェアリングエコノミーって、今まだ使われてる言葉でしょうか。</p>
松浦委員	<p>鈴木委員の補足をさせていただきます。シェアリングエコノミーは、今地域協働課さんから委託をいただいて、協働プラザというところで、地域資源バンク、あといぬやまでばん、という、ネット上で物だったり人だったり、場所だったり機会だったりっていうのを、促進させていただくという活動をさせていただいております。犬山市民はもちろんですけれども、他市に犬山市の方が活躍しにいたり、ということもやっておりまして、その活性化っていうのはさせていただいております。</p>
鈴木(伸)委員	<p>ありがとうございます。すごいすてきな活動です。「シェアエコ」という言葉が、</p>

	果たして一般的なのかなと思います。でもよく考えたら、石山アンジュさんとかすごい頑張ってるから、これからまだシェアリングエコノミーは広がっていくんだなと理解しました。ありがとうございます。
松浦委員	ちなみにアンジュさん犬山市に来ていただいて、市長にご挨拶していただいております。
水内副会長	はい、ありがとうございます。
紀藤副会長	資料2、先ほど「市役所に来なくてもよい」とありました。アンケートにすごい書いてありましたけど、確かにその通りだと。アナログ人間とかいうことではなくて、アナログでもデジタルでもその人にとって行かなくてもいいとか、そういう表現はやっぱりできるだけ僕はやめた方が良くと思います。それはちょっと極端に言う失礼だなという。高齢の方も若い方も障害のある方もいらっしゃるの、先ほど言われたように、「行かなくて済む」という、そんなような表現がいいと思います。それから、「誰ひとり取り残さない」この犬山市の魅力。みんながいきいきとしている、これは目指す姿ということですけど、本当にこれをやろうと思ったら、もう大変なことなんですね。だから、すごい立派なことで、「子育て支援と教育に力を入れている」、本当に入ってるんですか。もう、先ほど春日井のお話だとか、村田機械とかいろいろ近隣のお話があったかもしれませんが、例えば近隣市町、扶桑、大口、小牧と比べて、子育て支援、教育にすごい力を入れていると、本当に言えるのか。そういうことを、立証しないと、格好よく書くと、私も現役のときは反省してるんですけど、こういう耳触りのいい言葉はすっと通ってくる。正直言って、これを今度計画の策定といいますか、僕あんまり耳触りのいいことをやってきて、本当に反省がある。だから、具体的に耳触りのいいことじゃなくて、犬山市に今足りないものは何かとか。そういうことをこれから一生懸命克服していきましょう。だから、すごく綺麗な言葉ではなくて、何かそういうようなことを、具体的に目指していくということに変えたほうが、真実味があるといいますかね。先ほどシティプロモーションだとか、知らない人ですと、耳触りがいいことってすっと通っていくんですよ。でも本当に総合戦略として書くとしたら、もう少し具体的なことをお書きになった方がいいのかなと思っています。
水内副会長	はい。ありがとうございます。この文言がどこに紐づいてるのかなということですね。具体的にそこがもう少し分かりやすくなるというご指摘かと思います。少し時間になってきました。もちろん行き来しても大丈夫ですが、話題の中心はこの3-2の「活躍したいまちがある」に移っていきたいと思います。この話題で15分ほど時間を使いたいと思います。ご指摘いかがでしょうか。松浦委員お願いします。
松浦委員	行き来してしまいますが、3-1の子育てのところ、先ほど紀藤委員がおっしゃっていただいた子育て支援に力を入れている、教育に力を入れているというところを見ると、教育に力を入れていることがすごく印象的だと思います。犬山って聞くと教育だよねと、どこのまちに行っても言われるぐらい本当に力を入れているなと思います。子育て支援のところって、すごく見えにくい気がしていて「今後チャレンジする主な取り組み」紀藤委員がおっしゃっていただいた具体的に書いた方がよいよというところ、具体的に書いてあるんですけど、例えば「病児保育事業の実施」というのも他の市町村もやっていると思うんですよ。なので、もっと目玉になるようなことを書いたら、当たり前のことじゃないのかなって思っちゃうと、せつかく戦略のことを書くのに、これはまだやってなかったのって思うので心配で

	<p>す。なので、犬山市の子育て支援で、他の市町村とは違うことやってるよっていうところが見えるようなものがあるといいかなと。そこで言うと、産後ケアの利用促進というところは、もうちょっと見える化していくと利用促進でどんなサービスが受けれるんだろう、文字数とかあるとは思うので、たくさん書くことは難しいにしても、この産後ケアっていうのは今から始まったばかりで、今後施策として見ていくものだと思うので、これが犬山市としてどんな利用促進が実際受けられるのかっていうものだと、犬山こんなことをしているんだって思う。産後ケアの利用促進って何って、私は専門職で産後のことをやっていたので、こんなことだろうなと思うんですけど、一般の方たちってイメージつくのかなって思っちゃったので。目玉になるもの、あって当たり前のもではなくって、それも必要なんですけども、目玉になるようなものはあってもいいのかなっていうのは印象でお話させていただきました。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。重要なお指摘かなと思いました。これは暮らしたいまちとかっていうことに関わらず、チャレンジする主な取り組みをもう少し見直しできるとよいのではないかなということにも繋がると思うんですけども、今後チャレンジする主な取り組みですので確かにまだやってなかったと思われることもありますよね。今後チャレンジするってことは、これまではやってないっていう意味もとれちゃうんで。今後チャレンジするってことに絞るのであれば、犬山市独自の、これを通じて魅力を伝えられる施策をきちんと並べるっていうふうな整理が必要なのではないかということですよ。それは非常に重要な指摘だと思います。ありがとうございます。</p> <p>他にいかがですか。気付いたことから、ご指摘いただければと思います。紀藤委員、お願いします。</p>
紀藤副会長	<p>すみません、私前回は申し上げたんですけど、ここにもチャレンジと書いてあるのでいいんですけど、「子育て支援と教育に力を入れてる」というふうに大きく丸が出てると、私民生委員12年やっておりました時に、子育て支援センターというか、学童保育センターですかね。何回も行ったんですけど、学童が座る下のマットは、いつのものか分からないぐらいめっちゃくちゃ古くて、それから学校は30人学級って言ってますけど学童の保育はぎゅうぎゅう詰めで、それからトイレは和式、それから建物は古い、それは仕方がないかもしれませんが、そういう状態を目の当たりにして、子ども真ん中とかこの子育て支援とか言われると、うーんと首をかしげてもう本当にやって欲しいなと強く思ってる場所ですので、ぜひチャレンジに書いてありましたので、今すぐにやっていただきたいなど。</p>
事務局（井出）	<p>前回もお話いただいて、学童については今児童センターから学校の中でできるように、順次してます。それによって中で、学校も綺麗で新しくしてますし、あとトイレについても学童児童センターに限らず、洋式化も進んでいましていろんな施設で順次洋式化してます。市民文化会館も和式トイレですけども、あれを洋式化していく方針です。皆さんがよく使われる施設で洋式化、それから先ほどの児童センターについても、学童をやる場所は学校内に新たに整備してってことで順次やっていくということなんです。そういうところでも子育て支援は力を入れていきたいなという、意気込みを見せたいと思っています。</p>
紀藤副会長	<p>市民会館も遅すぎますよね。近隣市町は和式トイレなんかどこもないのに、ウォシュレットなのに、犬山市だけが。あれは記念として残しているのか分かりませんが、なかなか珍しいですよ。先日、東京の新宿に行ってたんですけど、小</p>

	<p>さな公園ばかりなんですね。そこのトイレもウォシュレットなんです。あれを見たときに市民会館をどうしても思い出してしまったので、早くやっていただきたいなと思っております。</p>
事務局（井出）	<p>やりますので、ご期待ください。</p>
水内副会長	<p>前回に鈴木温委員がハードについてもきちんと手を入れるべきだということと重なるかなって気がしますね。市民からすると、デザインだとインターフェースと言うんですけど、触れるところですので、そこが市からのメッセージのように感じ取れてしまうっていうのもありますよね。先にやる事業がおそらくあるからだと思うんですけど、それがあたかも市の1つのメッセージとして、市民に伝わってしまう。そういう結果として、アンケート的な心情にも繋がってしまう。その市民の接点である部分をきちんとするべきですね。</p>
紀藤副会長	<p>繰り返すようで申し訳ないんですけど、犬山市の至らなさ、それをしっかり知ることが、次のステップに行くってことだと思います。ですから、近隣市町とどこが至らないのか、どこが優れているのか、それをはっきり認識した上での計画づくりっていうのが私は素晴らしいと思うんです。</p>
水内副会長	<p>はい。ありがとうございます。 他にはいかがでしょう。</p>
中山委員	<p>子育て支援というか、住環境とかに関わってくる部分だと思うんですけど、公園とかで子どもを遊ばせるときに、遊具が老朽化していたりとか、あんまり大きい公園がないので、例えば滑り台はこの公園が綺麗で新しいから行って、でもブランコは無いから城前の隣のところへ行ったらかなんです。充実した公園がないなというイメージが他の市に比べてあるので、そういう場所を作っていただけたら嬉しいなと思います。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。 他にはいかがでしょうか。</p>
松浦委員	<p>資料3-2の②「がんばる企業と新たな起業を応援します」とあるんですが、スターアップとかの支援とかをやっているから、そのスタートアップ支援しますよ、みたいな文言がどこかにあるといい。読み込まないと、どんなことをしてくれるかが分からない。若い人たちもスタートアップって言えば、起業ってすぐ結びつく。そういった文言に変えられるといいのかなと思いました。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。</p>
鈴木(伸)委員	<p>資料3-3、観光産業でちゃんと儲かっているまちなのかどうかっていうところは、違和感を持っているところがありまして。特に特産品、地場産品による特産品、工芸品もそんなにはなくて、だから新たな観光産業を作り出すということなんですけど、それをやるならもっとベースとなるところをしっかりと、それは工芸なのか農業なのか分からないですけど。そこら辺も書かないと上っ面だけになっちゃう気がします。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。作り出すというよりは、もっと基礎的なところへのチャレンジが必要ではないかということですね。確かにそうですね。犬山は観光産業としては、抜きんでるわけです。それをさらに高めるためには、新しいコンテンツをどんどん作るよりは、むしろ基礎固めをきちんとすることであるというご意見ですね。</p>
鈴木(伸)委員	<p>犬山市内で落としてもらったお金が、ちゃんと犬山市内で回るような形を作らないと、現状は分からないですけど、落ちたお金のかなりの額が市外へ行っちゃって</p>

	<p>る。それって、何億円もかけて観光、観光とやっているけれど、どうなのというところですね。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。確かに非常に重要ですね。ここの循環を回していかないと稼げてないってことですね。地元で還元されていない。確かにそういうふうなところを少し強調されてもいいのかもしれないですね。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。</p>
鈴木(温)委員	<p>私も観光のところについて1点指摘させていただきたいと思うんですけど、犬山は外国人観光客の伸び率が全国1位になったり、非常に外国人の観光客が多いと思うんですけども、外国人観光客に対する対策とか事業が文章のどこにも出てきてないので、もう少し国際化に対応したような施策も入ってくるといいんじゃないかなと思いました。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。なるほど。その状況は知らなかったですけども、外国人観光客の伸び率が高いと。</p>
紀藤副会長	<p>また、前回言った繰り返しになって申しわけありませんけれども、犬山市民が犬山市に住む喜びというか、小牧、大口、扶桑じゃなくて犬山市に住んでよかったなという思い。これ前回申し上げましたけど、犬山市には明治村とかリトルワールドとか、犬山城だけじゃなくて、すごい施設があるんですね。これ名鉄がお作りになったんですけど、市内にあるんですよ。ですから、名鉄さんと話をして犬山市民がそれをすごく安い料金で入れる。そうすると、扶桑とか、大口の方が犬山市に住みたいね。そんなに安く明治村とか、貴重な文化財を見に行けるのなら、そういうような思いを1つ作っておくと、犬山市に住む、その素敵さっていうかね、そういうことが分かるんじゃないかなと思いますので、名鉄と交渉して欲しいなと思います。明治村とかモンキーパーク、それからリトルワールドも行きますけど、かなり赤字なんだろうなと思います。要するに、ペンキがすごい剥がれてるとか、それからお客さんが少ないとか。だから、犬山市があんな施設を作ろうと思ったら、とんでもないお金がいてできませんので、作りはできないけど利用はできる。こういうことを、他の近隣市町よりはるかに優れていることを示せば、住みたいなということになってくるんじゃないかなと。繰り返して申し訳ありませんけども、そういう犬山市の魅力っていうのを具体的に示していきたいなと私は個人的に思っております。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。まさにこの自慢がしたくなる、犬山市内に住んでる人が、知り合いにも教えたり自慢したい。ある種の分かりやすさ、犬山市ってこうなんだよっていうポイントを作っていく、そういうことが重要だっていうご意見ですよ。確かに複雑なものはなかなか自慢しづらいですから、インパクトがないと。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。あと10分ほどありますので、どの領域にも関わらず、感じたことを含めてご意見いただければと思います。</p>
鈴木(伸)委員	<p>全然今日のテーマと関係ないのですが、前回の会議の後に個別で意見をお出しした中で、若い人たちとかにも見やすいダイジェストがあると、と提案させていただきました。答えももらってるのですが。桑名市、今はどうか知らないですけど。7、8年前に桑名市が作った総合計画が結構漫画チックだったんですね。あんなイメージで、要は、高校生が電車の中でちょっと読んでみよう、お母さんが病院の産婦人科とか小児科の待合室で、暇つぶしでちょっと見てみようかみたいな。そんなものができるとこういうのが次の世代に伝わるのかなと思います。というのは、私議員</p>

	ですけど、私でも正直言ってこの分厚いものは読まないのを、読めるようにしていただきたいというのもあって前回お出しした質問でございます。
水内副会長	ありがとうございます。
玉置委員	冊子ももちろんいいと思うんですけど、動画とかの方が見るのかなあと、今自分で見るって言ったとき、動画しか見てない気が。今は青年会議所も動画時代に対応できるようにっていうふうで、動画大量消費時代と言われているので、動画だと見る人が増えるんじゃないかな。せつかく動画を1本作っても、みんなが見ないともったいないなっていうのがあるので、そういう動画にするとういかなと思います。
水内副会長	ありがとうございます。重要ですよ。いかに伝えるかってこと考える必要性っていうのは、総合戦略自体を柔らかくしすぎるすぎると本末転倒だと思いますけど、それを伝えるフェーズとして媒体から考えていくという重要性もあります。
松浦委員	構成からになってしまうんですけども、犬山市の全体像が分かりにくくて、例えば栗栖と今井とか、あとは駅周辺とか城下町とかって、それぞれ課題があると思うんですね。総合計画全体で書いてあるんですけども、基本的に自分たちが住んでいる、このまちの中のこの地区はどんな課題があつてっていうのが、すごく見えにくいなと思っています。特に差があるので、そこを見やすくするとういかなと思っています。豊田さんとか関さんが作っているような地域関係みたいな、土台の上で、こんな課題がこの地域にはあるよね、市全体が解決することはこれだけ、地域の人たちが解決しなきゃいけないことはこれだよっていうような、具体的に見える化していくと細かい課題も見えてくるかなと思っていたんですが、全体のことで難しいかなとは思いますが。先ほどの見える化というところかというと、誰でも見やすい冊子と、あと興味を持つ、やっぱり自分の地区がどうなのかっていうところでいくと、興味を持っていかれると思いますし。どんなふうに健康水準上げていくかっていうのも、インフラ的な課題だけではなくて、自分が生きていく中で病気をしてもしなくても健康に過ごすためには、というのが見えてくるような気がするので、こういったものが載っているとういかなと思いました。
水内副会長	ありがとうございます。今の話だと、例えば市民の人にこれやってくださいよってなかなか厳しいかもしれないですけど、健康づくりっていうものがあつたとすると、地域によってどういう状況なのかが分かります。そして行政はこういうことをやりますよ、市民の皆さんはこういうことをやってください、学校や自治会はこういうことをやってくださいっていうふうに、主体によってできることを、やることを分かりやすくするということですよ。それによって犬山市全体で、ある目標を達成していこうという。理にかなっていて戦略的ですね。その周囲の人にやってくださいってなかなか厳しいですが、自分ができることに関わりやすいということですね。
紀藤副会長	私は分からなくて皆さんに聞きたいんですけど。先日、中日ビルができて行ってきました。何回か行ったんですけど、その話を先ほどお話の楽田とか城東とかにいる方に喋りました。そしたら、10年ぐらい名古屋に行ったことがない。他の方に聞いたら、犬山から1回も出てないと、名鉄電車にずっと乗ったことがないと。こういうことは、犬山市としてどうしていったらいいんでしょう。積極的に、都会に少しは行っていただくのがいいのか、ずっとそこの地域の中で暮らしになるのがいいのか。どこか違う世界を見せてあげるのがいいのか、そのままそういうことをしなくていいのか。その辺が私は分からないんですけど、どうなんでしょう。
鈴木(伸)委員	特にこの席にいる人たちは、どんどん市外に出ていて、私なんか1日1回絶対市

	<p>外に出るといふうに決めているんですけども。やっぱりよそ見ないと犬山の良い所、悪い所分からないです。それを我々今こういう場所だからこういう発言しますけど、でも高齢になって、可能であればやっぱり外へ出てくことが元気の源になるでしょうし、刺激になるでしょうし必要だと思っています。それをここに含めるかどうかはあれですけど、犬山ってすごい便利などこだよねとか、駅が近いよねとか、都会に近いとか、スキー場とか海水浴とか2時間車を走らせれば行ける。そういうような、犬山ってアクティブに暮らすにはいい場所ですよと、紀藤委員の話を伺って思いました。</p>
紀藤副会長	<p>今鈴木さんが言われたように、それをやることによって違いが分かるんですね。犬山市との違いが分かって初めてこういう市がいいな、という考えが出てくるんじゃないかなと思うんですね。ですから、この2000人にアンケートをとって、回答率が39%というふうに出ていますけど、回答していただいた方の中には、犬山から出たことがない、この近隣市町に行ったこともない方も、アンケートにお答えされると思うんですね。ですから、そういう近隣市町の違いを知って初めて犬山市がどうあればいいのかなということが出てくるんじゃないかなと思っています。前も申し上げたかもしれませんが、近隣市町は人口が増えているんです。犬山市は減っているんです。やっぱりこの原因はしっかり検証しないと、僕はいけないんじゃないかなと思っています。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。僕個人的な意見ですけども、外に出ることだけが良いついていう価値感だけではないかなという気がするんですよ。ライフステージによっておそらく、外へ出ていけるステージもあれば、そうではなくて、地元でしっかり活動していく、地元のことをよく知ってという、フェーズもあってしかるべきだと思います。そのバランスは両面あっていいのかなと思いました。個人的な意見です。</p> <p>他にはいかがでしょう。時間がそろそろ15分で、向こうのチームも帰ってくるころかと思いますが、どうしてもこれだけは、というものがあればぜひご意見ください。</p>
松浦委員	<p>細かい話ですけど、このアンケートの中の高齢者タクシー利用券毎年更新の手続きに行くのにバスに乗っていくので大変です。本人確認を事前にして郵送してほしいです。この前たまたま居合わせたんですが、車椅子に乗っていた方が、お孫ちゃんに車椅子を引いていただいている、福祉課の方からちょうどエレベーターが一緒だったんですね。どこに行かれるんですかって言ったら3階ですって言われて、防災交通課の方に行かれたんですけど。障害があるので、障害福祉の方にバスの手続きに行ったんだけど、そこじゃないと言われて3階に行っていたんです。その辺が不便だなと私も思っていて、障害があるから下だと思ってたんですけど上だと言われてまた行かなきゃいけないんだっていう。この高齢者の方もですけど、課の都合で、もし上手くいくんだったら、その辺がスムーズにいくと高齢者の方も障害者の方も上手くいくなと思いました。</p>
事務局（井出）	<p>たらいまわしではだめだと思います。最初に相談受けた課で、責任持ってやるのが一番いいかと思いますが、もし必要なら担当課呼べばいいと思いますので、そういったことないようにやっていきたいと思っています。</p>
松浦委員	<p>ちなみに防災交通課の方はすごく丁寧にやってくれました。</p>
鈴木(伸)委員	<p>話がずれるかもしれませんが、それこそ行かなくてもいい市役所っていうのは言葉が変わったんですが、それこそ地元の出張所で事が済めば、私楽田に住んでいるんですけど、ここまで来るのにも半日かかるんですよ。コミュニティバスでこま</p>

	で1時間かかる。送り迎えすれば送り迎えのドライバーが半日潰れちゃう。デジタルの時代に、そういうようになるといいなというのが。ただ、福祉系のところだと、出張所は市民課で部署が違うので、なかなかクリアできないかなとか。やっぱり障害者とかの顔認証、そういうところの課題があるんですけど、でも5年後ぐらいにそうなるといいですよ。
水内副会長	ありがとうございます。
事務局（井出）	先ほど構成の話であったり、周知の話、アドバイスいただきありがとうございました。構成については、実は6次総を作るときもいろいろ検討があったんですけども、なかなか地域別とか分野別のところで上手くいかなかったことがありますので、次に総合計画を策定する際は想像に上げて検討したいと思います。表現についても、或いは周知についても、またやり方を検討したいなと思います。ありがとうございます。
水内副会長	ありがとうございます。それでは時間ですので、これで終わりたいと思います。

(8) 全体

鈴木会長	では、各グループの話をいただきたいと思います。はじめに、Aグループからよろしく願いいたします。
関谷委員	<p>よろしくお願いします。Aグループです。非常に多くの具体的なご意見をいただいたんですけども、1つだけ皆さんご紹介したいのが、3つ目の「訪れたいまちがある」ということに関して、様々なご意見をいただき、かつ時間がない中、ものすごく熱くなったタイミングかなと思うんですけども、観光によって人が来るってことだけではなく、今回の戦略の中では定住をして欲しい、住みたいというところに繋がってほしい、というようなところで、そこへの取組みに関するチャレンジする重点事業がまだ少し弱いのではないかなというようなご意見がありました。</p> <p>観光でお金を落とすということだけではなくて、「行きたい」から「暮らしたい」に繋がる何か出てくるといいかなってということと、また資料2の「犬山市の魅力」の中に、「訪れたいまち」のところに「豊かな自然がある」というところが上がっているんだけど、実際に資料3ですとか資料4の「訪れたいまち」の重点事業とか理論の中には、自然に関するところというのは③の該当する木曾川あたりのところしか記載がないのではないかと。例えば、豊かな自然に関わるもので住みたいと思うような、委員の中からは農村の体験留学みたいなものとかそういったことに、繋がる何か提案ができるといいのではないかなというようなご意見がありました。</p> <p>その他にもいろいろなご意見があったんですけども、またそれは議事録で確認していただけるとありがたいと思います。以上です。ありがとうございました。</p>
鈴木会長	どうもありがとうございました。それでは、水内先生お願いします。
水内副会長	<p>Bグループの方も非常に活発に意見交換がされました。少しだけ紹介いたします。資料3-1の⑫「来なくてもよい市役所を目指します」これは少し誤解を与える表現なのではないかと。気軽に来れるということですね。それから障害などで市役所になかなか来られないような人たちが、便利にサービスを使えばというようなデジタル化の点をもう少し分かりやすく、書くべきではないかということであるとか。</p> <p>それから全部に渡ってなんですけれども、今後チャレンジする主な取り組みということで、例えば、資料4-1の①の中に「産後ケア事業の利用促進」とありますが、産後ケア事業は行って当然である事業、すでに行っている事業が取り上げられ</p>

	<p>ているということで、犬山市が今後にチャレンジする事業だということであればすでに行っている、行って当然であるような事業は、あえて取り上げて書く必要もないのではないかという意見でした。そういう意味では、これから犬山が独自に進めていく、チャレンジする重点事業をきちんと書いていくことで、事業や取組みを通じて新たな魅力を伝えるものにしていくべきではないかという意見でした。</p> <p>それから住みやすさに関しては、トイレや遊具など具体的な目に見える施設への改修進めていくことで、見直し足りていないようなところを認識して、具体性をつなげていく必要があるのではないか。</p> <p>それから、観光についても、地元に戻元できる、観光からの利益が地元に戻元されるような施策なんかがあるといいのではないかというようなご意見や、それから外国人観光客が増加しているということなんですが、それに対しての対応というか内容があったらいいのではないかというようなこともありました。</p> <p>そして最後に、全体通じてですけれども、総合計画や総合戦略を分かりやすく伝える必要がある。例えば漫画を介して伝えるとか、動画を作ってみるとか、媒体から考えていく。それからそれぞれの地区別の課題が分かるような表記をしたらどうかとか、それから取り組む主体別に、市民とか行政とか、主体別に分かりやすく、何ができるのかということを示していくことも効果的ではないかというような意見もありました。以上です。</p>
鈴木会長	<p>皆さんどうもありがとうございました。私は今日こちらのテーブルにずっと後ろで座って拝聴していました。聞いていると、話の流れや修正しなきゃいけないバックグラウンドの意味が非常によく分かりました。特に最後に先生がおっしゃった動画の話の話を随分していただきました。4月1日からスタートじゃなくてもいいんじゃないかなと思ってますね。様子を見ながら年内には、動画であるとか、或いはユニバーサルデザインで、点字にするとか、1年の中でバージョンアップしていくような挑戦というものが事業の中には大事になるんじゃないかと思いました。</p> <p>それから、今後チャレンジする主な取組みっていうところ、実はすべて読んで考えたんですけども、ここのところは表現を変えたほうがいいのか、今後のもあるし、「今後」もあるし、「今後も」があるとすると今後だけではまずいのではないかなと思ったりもしました。ですから、例えばですけども、「さらに力を入れる主な取組み」というような趣旨と意味合い、それをどういうふうに表現したらいいかは考え物だったんですけど、「さらに力を入れるぞ主な取組み」とかですね。キャッチフレーズ風に少し優しく表現するのもいいかもしれない。またこの辺りは、今日の皆さんの意見を聞きながら、表現を1度市民目線で考え直してみるいいチャンスかなと聞いていて思いました。</p> <p>いずれにしても、ものすごくたくさん宿題をいただいたので、冬休みを返上してやるという嘘は絶対言っちゃいけないので、冬休みは冬休み、お正月はお正月として、しっかりとリフレッシュしながらも、やり遂げていって、1月20日を迎えるようにしたいと思います。今日いただいたご意見をしっかりと踏まえながら、1月20日の7時からの会議に向けていきたくと思いますけども、改めて今日いただいた内容を反映させるということは約束できるかと思います。ですので、その上で皆さん、事前に通知をしていただく形になりますね。確認をしていただきまして、市民の方が我が事としてですね、当事者性を意識して、自分のまちづくりの計画だということを持ち、一緒に行動していただけるような、そんな書き上げ方ができるように、よくチェックしていきたいと思っております。皆さんもですね、今日出していた</p>

	<p>いた意見が反映されているか、そして当事者性を踏まえた形式になっているか。そんなところをしっかりと見ていただいて、1月に臨んでいただけたらと思います。</p> <p>どうも今日はありがとうございました。議論は尽きないと思いますけれども、終了していきたいと思います。</p> <p>それでは事務局の方から、1月に向けてメッセージがあるということです。</p>
事務局（古田）	<p>ありがとうございました。今会長からご案内いただきました次回の会議ですけれども、年明けまして1月20日の月曜日、午後7時から開催予定とさせていただきます。また書面でご案内を差し上げますので、よろしく願いいたします。たくさん宿題をいただきましたので、年末年始リフレッシュして、頑張って会議の日を迎えたいと思っております。また資料は事前送付させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。</p>